

復讐は俺に任せろ (1953)

THE BIG HEAT

メディア 映画
ジャンル 犯罪
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 90分
初公開日 1953/12/06
公開情報 COL
リバイバル 1999/08 [ケイブルホーク]

【解説】

ラングにしては俗っぽい犯罪告発映画だが、主人公の刑事が警察を辞め、個人で悪の組織に立ち向かう後半はなかなかいい。

ダンカンという刑事が拳銃自殺し、バニオン刑事部長が捜査に当たるがこれといって不審な点はない。しかし、バーの女ルーシーの電話から全てが変わる。彼女はダンカンの愛人で、3日前に彼に会ったが元気だった、と言う。未亡人は悪妻で、何かワケがあるに違いない、との訴えだった。そして、すぐルーシーは遺体で発見される。バニオンは手口から、今や政界に乗り出そうという成り上がりの元ギャング、ラガーナの身辺を洗う。だが、署の上層部と連中は癒着しており、妻を車に仕掛けた爆弾で殺され憤る彼は孤立し、バッチを叩きつけ単独で、車の爆弾の筋から核心に近づこうとする。ガレージの老秘書の協力で、ラガーナの手先の名が割れ、バニオンは彼の用心棒ヴィンス（マーヴィン）の情婦デビー（グレアム）から実状を聞き出す。このことが男にバレたデビーは煮え立つ珈琲をかけられ顔に大火傷を負い、左半分を包帯で覆ってバニオンの借住まいのホテルに転がり込んだ。バニオンの陰でデビーも報復に動き、ラガーナの汚職の秘密を夫の遺書で知りゆすっていたダンカンの未亡人を射殺。そして、ヴィンスを待ち伏せて、自分のされたように珈琲を浴びせる。そこへ駆けつけたバニオンとヴィンスは撃ち合いになるが、デビーを殺したヴィンスを、法の名の下に彼は逮捕し、血に訴えることはしない。そして、全ては詳らかになり、バニオンは復職する。

グレアムの熱演が光る作品だが、その性格描写にいまひとつ説得力がなく、行動が裏付けの取れないまま突出している。そこが最大の見せ場であるだけに惜しい。99年に「ビッグ・ヒート／復讐は俺にまかせろ」と改題されてリバイバル公開された。

【クレジット】

監督	フリッツ・ラング	Fritz Lang	
製作	ロバート・アーサー	Robert Arthur	
原作	ウィリアム・マッギヴァーン	William McGivern	
脚本	シドニー・ボーム	Sydney Boehm	
撮影	チャールズ・ラング	Charles Lang	
編集	チャールズ・ネルソン	Charles Nelson	
音楽	ミッシャ・バカライニコフ	Mischa Bakaleinikoff	
出演	グレン・フォード	Glenn Ford	デイヴ・バニオン刑事
	リー・マーヴィン	Lee Marvin	ヴィンス・ストーン
	グロリア・グレアム	Gloria Grahame	デビー・マーシュ
	ジョスリン・ブランド	Jocelyn Brando	カイティ・バニオン
	キャロリン・ジョーンズ	Carolyn Jones	ドリス
	ジャネット・ノーラン	Jeanette Nolan	バーサ・ダンカン

アレクサンダー・スコービー Alexander Scourby マイク・ラガナ
ピーター・ホイットニー Peter Whitney